

公園の秋(将棋する人) 1987年(昭和62年)西川一平(前会長)

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第67期中間株主通信をお届けいたします。



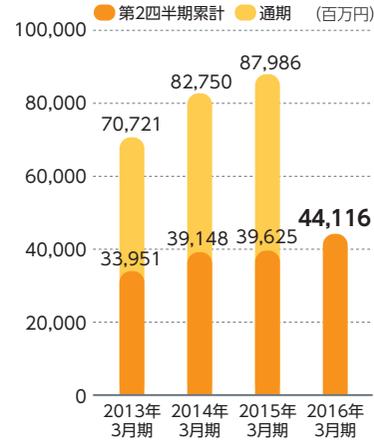
西川ゴム工業株式会社

財務ハイライト

売上高

44,116
百万円

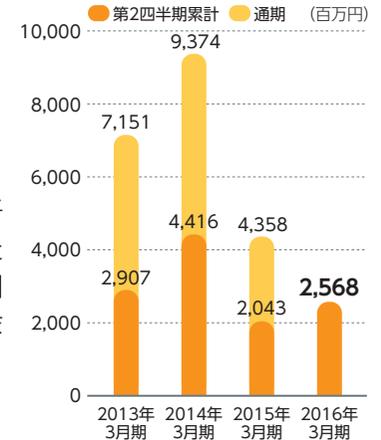
国内自動車生産は前年同期を下回ったものの、海外では一部地域で増加した結果、前年同期比11.3%増となりました。



経常利益

2,568
百万円

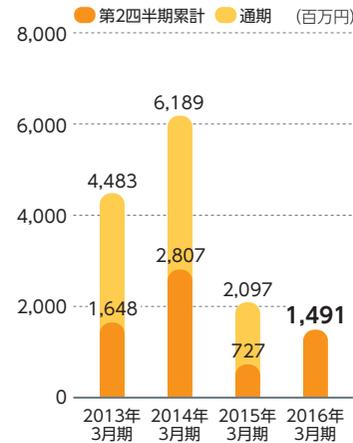
米国およびメキシコ子会社の収益が改善したことが寄与し、前年同期比25.7%増となりました。



親会社株主に帰属する四半期純利益

1,491
百万円

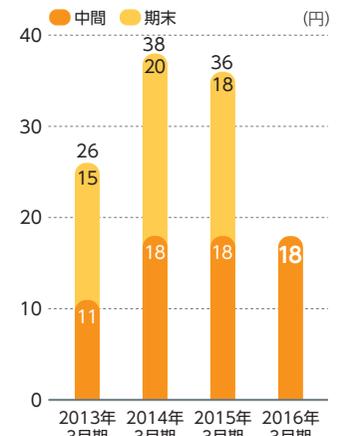
前年同期比105.1%増となりました。



1株当たり配当金

18円

当期の中間配当は1株当たり18円とさせていただきます。



※2014年3月期の年間配当には記念配当2円が含まれております。

セグメント別の業績

自動車用部品

国内においては軽自動車税増税等の影響により生産台数の落ち込みがあったものの、海外生産は堅調に推移した結果、売上高は420億9百万円(前年同期比12.8%増)、営業利益は22億89百万円(前年同期比45.3%増)となりました。

一般産業資材

住宅市場において、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が薄れ、プレハブ着工戸数に持ち直しの動きが見られたものの、売上高は21億6百万円(前年同期比11.8%減)となりましたが、営業利益は1億89百万円(前年同期比1.5%増)となりました。

Q 上半期の事業環境と業績について教えてください。

A 上半期を振り返りますと、わが国経済においては政府の経済政策や日銀の金融緩和政策により、対ドルを含む海外通貨に対しての円安基調が継続する中で、輸出関連企業は恩恵を受けていますが、依然として個人消費は低迷しており、景気回復は未だ道半ばの感があります。

海外に目を向けますと、米国では堅調に経済が拡大、また欧州経済も回復傾向で推移しました。しかしながら、中国では経済成長率が鈍化するとともに、株式バブルが崩壊した結果、世界の主要株式市場に多大な影響を与えるなど、世界経済については依然として先行きは不透明な状況で推移しています。

自動車部品業界におきましては、国内では4月に軽自動車税が増税され軽自動車の生産台数が対前年比で大きく減少した結果、国内自動車生産台数は対前年比でマイナスとなりました。しかしながら、海外では北米や中南米、一部の東南アジア地域において生産台数が増加するなど、全体的に堅調に推移いたしました。

この結果、米国やメキシコなどの海外子会社において前年同期に比べ売上が増加したことにより、当第2四半期連結累計期間における売上高は441億16百万円(前年同期比11.3%増)となりました。利益につきましても、米国およびメキシコ子会社の収益が改善したことが寄与し、営業利益は24億79百万円(前年同期比40.6%増)、経常利益は25億68百万円(前年同期比25.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は14億91百万円(前年同期比105.1%増)となりました。

代表取締役社長

西川正洋

Q 下半期の事業環境について見通しを教えてください。

A 今年度上半期は売上・利益ともに前年同期を上回る結果となりました。しかしながら、国内においては自動車販売台数の不振は続くものと思われます。また、海外においては世界最大の自動車市場となった中国で販売台数が減少している点に注視する必要がありますと考えています。このように依然として国内外ともに不安定要素は多く、先行きは依然として不透明な状況が続くと思われます。

このような状況下ではありますが、当社は2020年ビジョン達成に向けて以下の施策を確実に実行し業績の向上を図る所存です。

自動車用部品事業では国内外の拠点において引き続き受注拡大に努めつつ、西川ゴムグループ総原価低減活動を力強く推進し、最大限の収益を確保してまいります。また、一般産業資材事業においても二本柱である住宅関連製品および土木関連事業でリソースを集中させることで、売上・利益を拡大させてまいります。

Q 株主への利益還元について考えを教えてください。

A 当社は、業績の安定的向上と安定配当の継続および配当性向等を勘案し、経営環境や収益状況、さらに財務体質の強化にも配慮し、配当額を決定しています。中間配当については、業績等を考慮しつつ、安定配当を検討した結果、前期同様1株につき18円とさせていただきます。株主の皆様におかれましては、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

快適な車内空間を実現した —ウェザーストリップ—



自動車は、今や単なる移動手段ではなく、多様な要求を満たす乗り物に変化しています。その中で、今世界中で“オープンカー”がひとつのトレンドになっており、複数の自動車メーカーから新モデルが続々とリリースされています。オープン時の爽快感とともにクローズ時には一般車両並みの室内快適性が求められ、このシールを受け持つのが私達のウェザーストリップです。

このオープンカーのウェザーストリップの特徴は、まず形状面では、大型かつ複雑ということですが、それは、取付安定性やルーフ部挙動に伴う分割/接合等の必要性からのものですが、これらの要件を同時成立させるためには、高度な設計力が不可欠です。そしてCAEやキネマティック技術も重要アイテムです。また材料面では、シール性能上、この大型シールを柔軟なスポンジゴムで構成する必要があり、さらには、重要な外観機能も担っていることから表面塗装も必須で、そこには単なる外観向上のみならずクローズ状態での耐摩耗性向上や軋み音フリーも求められるなどの特徴があります。このように、オープンカーのウェザーストリップは多くの要求事項のある高難度なシール部品です。

私達は、これらを長年の実績に伴う設計・開発力やナレッジ・ノウハウにより確実に解決し、併せて生産性も向上させ、新しい時代のオープンカーシールをつくり上げました。今、これをフラッグシップ プロダクトとして掲げ、シール&フォームエンジニアリングによるブランド構築を、今後も一層進めてまいります。



オープンカーイメージ写真



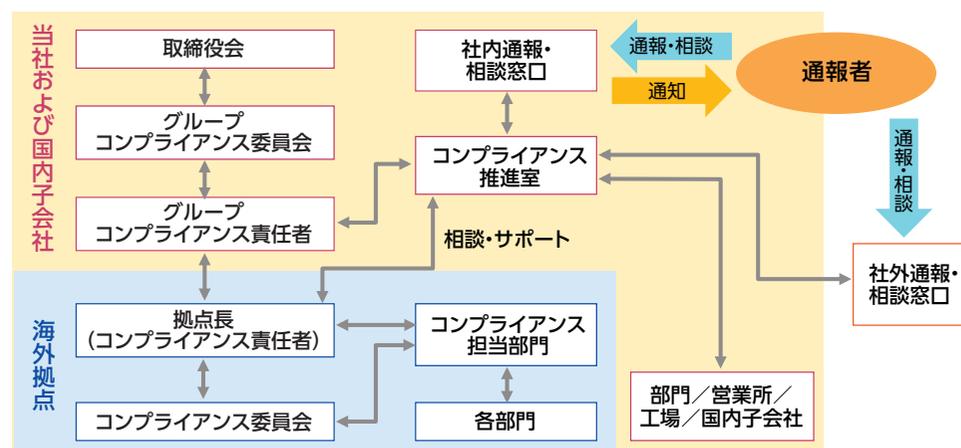
時間あたり5,000mmの雨を再現できるシャワー実験室
(タイトルおよび実験室写真 出典:Motor Fan illustrated)

西川ゴムグループにおける グローバル コンプライアンス体制強化について

西川ゴムグループにおけるコンプライアンスとは、社是にある「正道」および経営理念に則り、法令および社内の諸規定等を遵守し、社会から信頼されうる企業市民を目指すことであると広く捉えています。

2015年3月には西川ゴムグループのグローバル コンプライアンス管理体制の構築・強化を図るため、管理本部 経営企画部内に“コンプライアンス推進室”を設置し、2015年8月に以下の体制を構築致しました。2015年10月には周知・徹底強化の一環として、全ての役員・社員に対して“コンプライアンス ハンドブック”ならびに“コンプライアンス カード”を配布し、随時、社内教育を行なっております。新たなコンプライアンス体制の下、グループ全体で法令遵守の徹底および企業の社会的責任に基づいた事業活動をより一層進めてまいります。

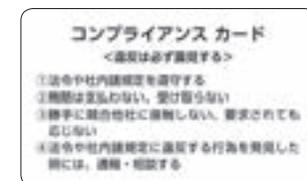
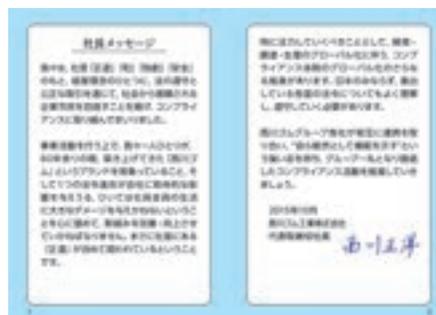
1. 西川ゴムグループ コンプライアンス体制について



2. 役員・社員に対する周知について



コンプライアンス ハンドブック



コンプライアンス カード

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

単位:百万円

科目	当第2四半期末 2015年9月30日	前期末 2015年3月31日
資産の部		
流動資産	52,732	50,206
固定資産	62,415	54,807
資産合計	115,148	105,014
負債の部		
流動負債	21,923	22,788
固定負債	17,633	12,679
負債合計	39,556	35,467
純資産の部		
株主資本	52,264	51,125
その他の包括利益累計額	19,698	15,034
非支配株主持分	3,628	3,386
純資産合計	75,591	69,546
負債純資産合計	115,148	105,014

連結損益計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期 2015年4月1日から 2015年9月30日まで	前第2四半期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで
売上高	44,116	39,625
売上総利益	8,652	7,190
営業利益	2,479	1,763
経常利益	2,568	2,043
税金等調整前四半期純利益	2,617	2,027
四半期純利益	1,818	864
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,491	727

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期 2015年4月1日から 2015年9月30日まで	前第2四半期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,922	3,139
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,737	△ 2,679
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,146	186
現金及び現金同等物に係る換算差額	31	83
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,362	730
現金及び現金同等物の期首残高	16,696	17,369
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,059	18,100

会社概要・株式情報

会社概要 (2015年9月30日現在)

社名 西川ゴム工業株式会社
 本社所在地 広島市西区三篠町二丁目2番8号
 (TEL. 082-237-9371 代表)
 設立 1949年(昭和24年)4月
 資本金 33億6,448万660円
 従業員数 1,351名

役員 (2015年11月1日現在)

代表取締役社長	西川 正洋	取締役	佐々木賢治
代表取締役副社長	山本 文治	取締役	内藤 真
専務取締役	児玉 照三	取締役	小川 秀樹
常務取締役	福岡 美朝	社外取締役	大迫 唯志
常務取締役	片岡 伸和	社外取締役	山本 順一
取締役	西川 泰央	常任監査役(常勤)	吉野 毅
取締役	米山 昌一	社外監査役	白井龍一郎
取締役	丸目 義博	社外監査役	藏田 修

株式の状況 (2015年9月30日現在)

発行可能株式総数……………48,343,000株
 発行済株式の総数……………19,995,387株
 株主数……………1,623名

●大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
西川正洋	2,434	12.43
株式会社ハイレックスコーポレーション	1,241	6.34
株式会社広島銀行	957	4.89
西川ゴム工業取引先持株会	952	4.87
西川泰央	748	3.82

(注)持株比率は、自己株式(416,558株)を控除して計算しております。

株主メモ (2015年9月30日現在)

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月開催
 一単元の株式数 100株
 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当金 毎年3月31日
 中間配当金 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 (特別口座の管理機関) 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社証券代行部

電話照会先 ☎ 0120-782-031
 公告の方法 日本経済新聞に掲載する

株主優待のご案内

株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、事業内容をより一層ご理解いただくために、株主優待制度を実施しています。贈呈時期は、毎年7月を予定しています。

所有株式数	優待の内容
100株以上 1,000株未満	500円相当の商品 およびフオカード500円分
1,000株以上 5,000株未満	2,000円相当の商品詰め合わせ およびフオカード1,000円分
5,000株以上	3,000円相当の商品詰め合わせ およびフオカード2,000円分



西川ゴム工業ホームページ

当ホームページでは最新の財務情報のほか、会社情報、製品紹介、技術紹介など当社を深くご理解いただくため様々なコンテンツをご用意しております。ぜひご覧ください。



<http://www.nishikawa-rbr.co.jp/>

